

【貢献部門】

新井 領一郎（あらい・りょういちろう）

1855～1939年

日本人にゴルフを広めた立役者



群馬県の豪農・星野家で生まれ、12歳で生糸商の新井家の養子となる。1876年、生糸輸出のために渡米して成功。米国ニューヨークを拠点に日米交流にも大きな役割を果たした。

ゴルフと出会ったのは体調を崩して静養していたノースカロライナ州パインハーストで1902年のこと。米国で初めてゴルフをした日本人だと推測されている。熱中した新井はニューヨークに戻ると米国駐在中の日本人に次々にゴルフの面白さを説き、ゴルフ

仲間を増やしていった。その中には東京ゴルフ倶楽部創設の中心となった井上準之助や後にJGA会長となる森村市左衛門、軽井沢ゴルフ倶楽部発起人のひとりである田中実ら日本ゴルフの基盤を築いた人物が多くいる。まだゴルフとはほとんど縁がなかった日本人にゴルフを広めたことが黎明期の日本ゴルフ界の成長を促したのである。その功績は大きい。

（文中敬称略）